

1

解説

$$(1) f(x) = -a^2x^2 + 4ax = -a^2\left(x - \frac{2}{a}\right)^2 + 4$$

よって、 $y=f(x)$ のグラフは上に凸である放物線で、軸は $x = \frac{2}{a}$ 、頂点の座標は

$\left(\frac{2}{a}, 4\right)$ である。

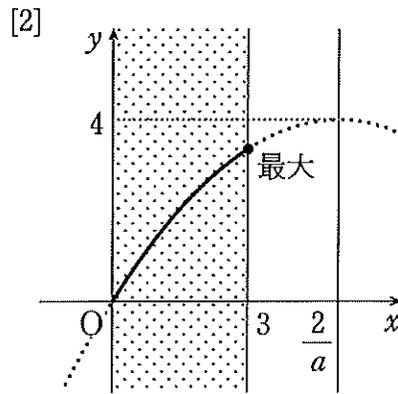
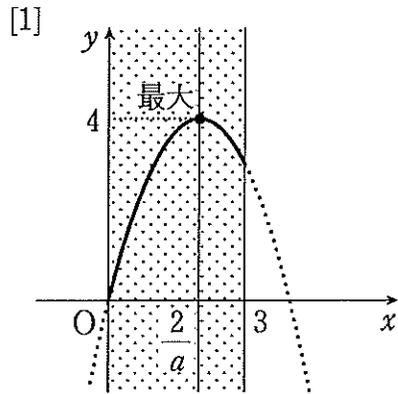
ここで、 a は正の実数であるから $\frac{2}{a} > 0$

[1] $0 < \frac{2}{a} \leq 3$ すなわち $a \geq \frac{2}{3}$ のとき

$0 \leq x \leq 3$ における $f(x)$ の最大値は $f\left(\frac{2}{a}\right) = 4$

[2] $\frac{2}{a} > 3$ すなわち $0 < a < \frac{2}{3}$ のとき

$0 \leq x \leq 3$ における $f(x)$ の最大値は $f(3) = -9a^2 + 12a$



(2) 曲線 $y=f(x)$ と直線 $y=3$ の共有点の x 座標は、 $-a^2x^2 + 4ax = 3$ から

$$a^2x^2 - 4ax + 3 = 0$$

$$(ax-1)(ax-3) = 0$$

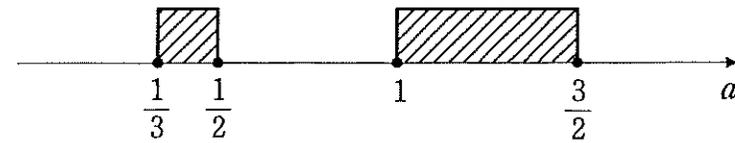
よって $x = \frac{1}{a}, \frac{3}{a}$

曲線 $y=f(x)$ と線分 l が共有点をもつための条件は

$$2 \leq \frac{1}{a} \leq 3 \quad \text{または} \quad 2 \leq \frac{3}{a} \leq 3$$

よって、求める a の値の範囲は $\frac{1}{3} \leq a \leq \frac{1}{2}$ または $1 \leq a \leq \frac{3}{2}$

数直線上に図示すると、次のようになる。



2

解説

(1) 勝敗表を作ると、次のようになる。

A \ B	石	はさみ	紙	
石	△	○	×	○: A が勝つ ×: B が勝つ △: 引き分け
はさみ	×	△	○	
紙	○	×	△	

よって A が B に勝つ確率は $\frac{3}{9} = \frac{1}{3}$ 、引き分ける確率は $\frac{3}{9} = \frac{1}{3}$

(2) 勝敗表を作ると、次のようになる。

A \ B	石	はさみ	紙	水
石	△	○	×	×
はさみ	×	△	○	×
紙	○	×	△	○
水	○	○	×	△

よって A が B に勝つ確率は $\frac{6}{16} = \frac{3}{8}$ 、引き分ける確率は $\frac{4}{16} = \frac{1}{4}$

(3) A が勝つ確率と B が勝つ確率は等しい。

よって、A が勝つ確率は $\left(1 - \frac{5}{25}\right) \times \frac{1}{2} = \frac{10}{25} = \frac{2}{5}$

A の勝つ確率が A の「手」によらないとき、それぞれの「手」で A が勝つ確率は

$$\frac{2}{5} \times \frac{1}{5} = \frac{2}{25}$$

よって、1つの「手」は、2つに勝ち2つに負けるように勝敗規則を定めるとよい。ゆえに、「土」は「紙」と「水」に勝ち、「石」と「はさみ」に負けるように定めればよい。

3

解説

$$(1) |\vec{OA}|^2 = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^2 + \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^2 = 1 \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} & (\vec{OP} \cdot \vec{OA})^2 + |\vec{OP} - (\vec{OP} \cdot \vec{OA})\vec{OA}|^2 \\ &= (\vec{OP} \cdot \vec{OA})^2 + |\vec{OP}|^2 - 2(\vec{OP} \cdot \vec{OA})^2 + (\vec{OP} \cdot \vec{OA})^2 |\vec{OA}|^2 \\ &= (\vec{OP} \cdot \vec{OA})^2 + |\vec{OP}|^2 - 2(\vec{OP} \cdot \vec{OA})^2 + (\vec{OP} \cdot \vec{OA})^2 \\ &= |\vec{OP}|^2 \end{aligned}$$

よって、与えられた不等式から $|\vec{OP}|^2 \leq 1$ すなわち $|\vec{OP}| \leq 1$

したがって、点 P 全体のなす図形は、点 O を中心とする半径 1 の円周および内部であり、求める面積は $\pi \cdot 1^2 = \pi$

$$(2) |\vec{OA}|^2 = \left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right)^2 + \left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right)^2 + \left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right)^2 = 1 \text{ であるから、(1)と同様にして、与えられ}$$

た不等式より $|\vec{OP}| \leq 1$

したがって、点 P 全体のなす図形は、点 O を中心とする半径 1 の球面および内部で

あり、求める体積は $\frac{4}{3}\pi \cdot 1^3 = \frac{4}{3}\pi$